

美唄市下水道事業経営戦略の概要

1. これまでの経緯

本市下水道事業は、平成元年から供用を開始していますが、人口減少などにより、今後一層厳しい経営環境に置かれることは想像に難くなく、そのような中、市民生活に不可欠な下水道サービスを安定的に提供していくためには、中長期的な視点から計画的な経営を行うことが必要です。

こうしたことから、本年度、美唄市下水道事業において、平成28年度から37年度を期間とする経営戦略を策定しました。

2. 経営戦略の基本的な考え方

経営戦略の基本的な考え方は次のとおりです。

●経営戦略の構成

経営戦略のうち、『投資・財政計画』は、将来の投資必要額を見込む「投資計画」と、（投資支出も含め）計画期間内の収入支出を見込む「財政計画」からなる中長期的な収支計画です。

また、『効率化・経営健全化の取組方針』は、経営の効率化、健全化に向けた具体的な取組を位置づけるものです。

●試算単位

『投資・財政計画』については、事業単位で試算を行いました（公共下水道事業、特定環境保全公共下水道事業、個別排水処理施設整備事業でそれぞれ試算を実施）。

●対象期間

「投資計画」は、平成28～37年度の10年間としました。「財政計画」は、平成28年度～37年度の10年間を対象期間としました。

3. 投資・財政計画について

（1）投資計画

計画期間については、平成28年度～37年度の10年間に見込まれる事業を試算しました。また、試算期間については、下水道施設における耐用年数などを基に、将来の事業規模を試算しました。

●計画期間の事業費について

公共下水道事業（雨水含む）については、期間中の10年間で総額136.7億円（年度平均13.7億円）の事業を見込みました。

特定環境保全公共下水道事業については、期間中の10年間で総額15.8億円（年度平均1.6億円）の事業を見込みました。

個別排水処理施設整備事業については、期間中の10年間で総額8.4億円（年度平均0.84億円）の事業を見込みました。

●試算期間について

公共下水道事業（雨水含む）のうち、管渠分については、期間中の投資額を試算し、管渠の健全性、投資の実現性を検討しました。

特定環境保全公共下水道事業については、公共下水道事業と同様、期間中の投資額を試算し、管渠の健全性、投資の実現性を検討しました。

個別排水処理施設整備事業については、法定耐用年数と実耐用年数に基づき、期間中の事業費を試算し、投資の実現性を検討しました。

(2) 財政計画

公共下水道事業（雨水含む）、特定環境保全公共下水道事業、個別排水処理施設整備事業ともに、収益的収支、資本的収支に分けて試算を行いました。

収益的収支、資本的収支とも、期間を通じて損失が生じることは無いものと見込まれました。

4. 効率化・経営健全化の取組方針について

●汚水処理原価の低減について

本市公共下水道事業の汚水処理原価は、全国及び道内の自治体の中でも高い状況にあります。

このため、汚水処理原価の増嵩の原因分析、低減方策の検討を行い、具体的な方策に繋げるべく取組を進めることとしました。

●使用料徴収体制の拡充について

公法上の債権である下水道使用料は、地方自治法に基づく強制徴収が可能ですが、現在は水道料金とともに市水道事業で徴収活動を行っているため、財産差押え等の強制徴収は行っておりません。

このため、一部の公共下水道使用料債権について、市税等とともに滞納処分の対象とする仕組みを構築することを目指し、検討を進めることとしました。